



平成 25 年 8 月 13 日

各 位

東京都目黒区青葉台三丁目 6 番 16 号
株式会社ジェクシード
(URL <http://www.gexeed.co.jp>)
代表者名 代表取締役社長 細井 一雄
(コード番号: 3719)
問合せ先 管理本部長 佐伯 正勝
電話番号: 03-5456-3051

平成 25 年 12 月期第 2 四半期累計期間業績予想との差異 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 25 年 2 月 14 日に公表いたしました平成 25 年 12 月期第 2 四半期累計期間（平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 6 月 30 日）の業績予想との差異、及び平成 25 年 12 月期通期業績予想を最近の業績の動向を踏まえ、下記の通り修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 平成 25 年 12 月期第 2 四半期累計期間の業績との差異（平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 6 月 30 日）

(単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
前回発表予想 (A)	743	17	12	7	0 円 69 銭
今回実績値 (B)	569	△58	△64	△116	△12 円 11 銭
増減額 (B-A)	△174	△75	△76	△123	—
増減率 (%)	△23.4	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績	497	△74	△76	△117	△12 円 99 銭

2. 第 2 四半期累計期間業績予想との差異理由

我が国の経済は昨年来より景気減速の主な要因になっておりました東日本大震災の影響、欧州の金融危機による影響等からは脱却しつつあり、また年初からの円安、株高基調への移行により急速に回復の兆しが見られつつありましたが、新たに一部のアジア圏の景気減速と一部先進国の金融引締め等の懸念による先行きの不透明感を受け、依然として不安定な状態で推移しており、一部輸出産業の好業績が報告されつつも産業全体を回復するまでには至っておりません。これらの状況より当社の主要事業であるコンサルティング事業においては、依然として顧客の設備投資の見合わせ、予算凍結等の継続により受注は縮小継続され、その業績を回復するまでには至りませんでした。こうした中、競合他社との入札に於いて過度な値引き、開発リスクの増大等により一部の大型プロジェクトの開発遅延があり、その採算性が極端に低下した影響等により営業利益が大きく圧迫される結果となりました。また、本日発表の「特別損失の計上に関するお知らせ」に記載の通り、営業効率の改善と費用対効果構造の見直しの一環として行う新事務所への移転費用に関する特別損失と長期前払費用に対する減損損失を計上しました。

全社の業務の効率化・合理化により一層のコスト削減を実現しておりますが、前期の第 4 四半期と今期の第 1 四半期には黒字基調に構造転換したものの、売上の低迷が響き回復するには至らず、売上高 5 億 69 百万円（前回予想比 1 億 74 百万円減）、営業損失 58 百万円（前回予想比 75 百万円減）となりました。当該営業損失の拡大を受け、経常損失 64 百万円（前回予想比 76 百万円減）、四半期純損失 1 億 16 百万円（前回予想比 1 億 23 百万円減）と、業績予想を下回ることとなりました。

3. 平成 25 年 12 月期通期業績予想の修正（平成 25 年 1 月 1 日～平成 25 年 12 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	1,600	88	79	61	6 円 04 銭
今回発表予想 (B)	1,273	△ 30	△ 40	△ 94	△ 9 円 84 銭
増減額 (B・A)	△ 326	△ 118	△ 119	△ 155	—
増減率 (%)	△ 20.4				—
(ご参考)前期実績 (平成 24 年 12 月期通期)	1,140	△ 79	△ 88	△ 177	△ 19 円 54 銭

4. 通期業績予想の修正理由

前期より開始いたしましたビジネス事業領域の見直しと拡大、現行事業の収益構造の改善、プロジェクトの採算性の見直し等を図り前第 4 四半期会計期間より急速にその収益性が改善し黒字体質へと構造転換することが出来ました。しかしながら、コンサルティング事業における需要の縮小傾向は徐々に回復の兆しを見せておりますが、急回復とはならず、依然として厳しい状況が続くと予想されます。当事業年度第 3 四半期会計期間以降は、業務の効率化及び合理化による事業基盤の強化とコストの適正化が着実に進捗すると考えており、対前事業年度 10%増相当の業績を維持することが可能であると想定しておりますが、第 2 四半期累計期間における赤字業績の全面的な回復は残念ながら困難であると考えられます。また、来期以降の長期的な成長戦略の一環として過去の負の遺産の整理、消却を推し進めたいと考えます。当然にして、組織・事業の構造改革を積極的に推進し、早期の業績回復に全社をあげて取り組んでおりますが、現時点での業績等を総合的に鑑み、上記の通り平成 25 年 12 月期（通期）の業績予想を修正いたします。

売上高については、第 2 四半期までの実績及び経済環境の影響を踏まえた今後の売上見込みに基づき 12 億 73 百万円（前回予想比 3 億 26 百万円減）、営業損失については 30 百万円（前回予想比 1 億 18 百万円減）、経常損失は 40 百万円（前回予想比 1 億 19 百万円減）、当期純損失は 94 百万円（前回予想比 1 億 55 百万円減）を見込んでおります。

なお、上記平成 25 年 12 月期通期業績予想に関しましては、本資料発表において当社が入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上